

茎数を確認し中干は適期に！

周辺ほ場を巡回し「ばか苗」の除去を 猛暑になる前に「ばか苗」・「ノビエ」対策をしっかりと！



産米改良協会 採種情報ページ

1 水管理

(1) 活着期～分けつ期

ア 活着したら、分けつの発生を促進するため浅水管理とし、水温と地温を高め、日気温較差を大きくする。

イ このため、できるだけかん水時刻は水温の低い早朝に短時間で行うようにする。

(2) 分けつ期

ア 田面の均平が悪く落水しにくい場合や排水不良田、生わら施用などによる異常還元田では、溝切りを行い排水を促す。

イ 目標穂数と同数の茎数を確保したら、ただちに中干しまたは深水処理を行い、過剰分けつの発生を抑制し、一茎の充実を図る。(有効茎決定期：6月25日ころ)

なお、排水不良田では、気象条件によって中干しによる分けつ発生抑制が不十分となる場合がある。このような場合は、深水処理による分けつ抑制が確実である。

ウ 中干しの期間は7～10日位とし、田面に亀裂が1～2cm入り、足跡が付く程度とする。

(過度の中干しは、根を痛め稲体の衰弱につながる)

エ 中干しの開始が遅れると、無効分けつが増加し、品質の低下にもつながるため、適期の中干しを行う。

オ 中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的な条件に保ち、根の伸長を促進させる。

2 病害虫防除・雑草防除

○ 防除が遅れないよう適期に実施する。

(1) 葉いもち病

防除体系に応じて、下表により行う。

① 地上防除体系(次の剤を施用した場合)

・箱施用：ブーンパディート、ブーンレパード

・側条施用：オリゼメート顆粒水和剤、ツイインターボ顆粒水和剤、コープガードD12

② 無人航空機体系(オリゼメート2回体系)

【防除体系別防除方法】

防除体系	薬 剤	施用量	時 期
① 地上防除	オリゼメート粒剤	2kg/10a	6月15～25日
② 無人航空機	オリゼメート粒剤20	1kg/10a	6月5～10日とその14日頃の2回

(2) ばか苗病

ア 育苗期に発生がなくても本田でばか苗病が発生することがある。発生が確認された場合は、7月中旬までに完全に除去すること。

イ 周辺ほ場の発病株を見つけた場合は、JAに報告し指導を受けながら株ごと除去すること。

ウ 除去した株は、感染源にならないよう埋没処分すること。

(3) 斑点米カメムシ類防除のための除草対策

ア 農道・畦畔の草刈りは6月上旬からイネが出穂する10～15日前までに数回実施する。

イ 雑草が繁茂しないよう、除草作業は早めに行う。

(4) 雑草対策

① 実生苗

・ほ場を注意深く見回り条間やこぼれ粒からの苗を発見したときはすぐに抜取りを実施する。除去作業は、1回目を田植え後2週間頃とし、2回目をオリゼメート粒剤散布前(6月15日前)をメドに実施する。

② ノビエ対策

・多発するほ場で中・後期除草剤の施用にあたっては、剤により効果の発現に日数を要するものがあり、さらに、落水により効果が著しく低下するので中干前(20～15日前)に余裕をもって散布すること。

3 気象情報

気象庁の1か月予報(5/25～6/24)によると

- ・気温はほぼ平年並の見込み。(3か月予報(6～8月)は高い確率50%)
- ・降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並の見込み。

4 病害虫の発生予察情報

秋田県病害虫防除所が発表(5月28日)した6月の主な病害の発生予報は次のとおり。

病 害 虫 名		発生時期	発生量(前年比)
葉いもち(全般発生開始期)		(感染時期)平年並	感染量 平年並(一)
ばか苗病		—	多い(前年より多い)
斑点米カメムシ類 (第1世代)	アカスジカスミカメ	早い(前年並)	多い(前年より多い)
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	早い(前年並)	多い(前年よりやや多い)

5 ほ場掲示板の設置

○ 掲示板の表示方法が一部変更になりました。

生産者名(生産者番号)、品種名は、JA等の指示に従ってください。住所は記載不要です。

○ ほ場番号等を確認のうえ、筆毎に設置してください。(掲示板が不足する場合はお知らせください。)



たね屋から ひとつ

- 昨年は大雨による冠水被害が発生しました。冠水した場合は、速やかにJAへ報告しましょう。
- ばか苗株を見つけやすい時期です。何度も巡回し抜き取りをしましょう。